

DV・性暴力被害にかかわる

支援者のための研修講座 2024


コース

Aコース 現在支援活動をしている方、これから活動しようとしている方、すべての方が対象です。

定員:80名 できるだけ全期を通してご参加ください。[6日間] 2-3ページ

SANEコース 性暴力対応看護師養成講座 看護職（看護師、助産師、保健師）の女性が対象です。

定員:30名 Aコースを修了していること、全期すべてに参加することが条件です。[6日間] 4-5ページ

Rコース NPO法人レジリエンスプログラム[2日間]／認定NPO法人CFJ RIFCR™プログラム[1日]

会場定員:40名 全ての方が対象です。プログラム別にお申し込みください。

レジリエンスプログラムのみオンライン参加+40名 6ページ

SVコース 事例作成の方法からスーパービジョンまで、即支援に役立つ内容で構成されています。[2日間]

定員:10名 Aコースを修了していること、全期(3日間)すべてに参加することが条件です。 7ページ

+ (定員:10名) ※Ⅲ期 1日目スーパービジョン聴講のみ (旧Cコース、2023Rコース修了者：会員のみ)

Ctコース 裁判に関する知識・情報が得られる研修。Aコース修了者が対象です。[半日]

定員:40名 7ページ

BSコース バイスタンダー研修。全ての方が対象です。[半日]

定員:40名 7ページ


日程

	I期		II期		III期		IV期	
	7/20(土)	7/21(日)	11/2(土)	11/3(日)	2/8(土)	2/9(日)	2/15(土)	2/16(日)
	有明医療大学		有明医療大学		有明医療大学		医科歯科大学	
A	オンライン	オンライン	会場	会場	オンライン	オンライン		
SANE	会場	会場	オンライン	オンライン	会場	会場		
R レジリエンス	会場+オンライン							
R RIFCR™							会場	
SV 事例検討			午後 オンライン	午前 オンライン	午後 会場			
Ct 裁判						午前 会場		
BS バイスタンダー								午前 会場


会場

東京有明医療大学

東京都江東区有明2-9-1

東京医科歯科大学(東京科学大学)

東京都文京区湯島1-5-45

Aコース 支援者のための研修講座：対人支援のあり方と社会構造について考える

I期 A1 コミュニケーションの取り方 丹野真紀子

冒頭で柘植が「女性の安全と健康のための支援教育センター」が研修講座を実施してきた目的と目標などを説明する。その後、講座の導入として、丹野が対人援助をする人たちのコミュニケーションの取り方の基礎的ワークをする。

A2 子どもの虐待とその支援 平尾幸枝

虐待を受けた子どもたちとその支援についての基礎的なことを学び、現状の問題点や今後の課題などを民間団体（子どものシェルター）の活動から見える実態も交えて考える。

A3 女性への暴力と社会構造 角田由紀子

なぜ、女性への暴力が肯定され、助長され、容認されてきたのか。社会構造へ深く視野を広げることで問題の核心に迫り、より確かな支援者を目指す。

A4 働くこととジェンダー格差 皆川満寿美

支援側で働く人自身であれ、相談現場に現れる人であれ、現実の労働問題を理解することは重要である。日本の企業は女性労働者をどう扱っているのか、なぜ雇用における男女間格差はこれほど大きいのか、日本政府による調査を中心としたデータから示したい。

A5 リプロ①日本におけるリプロダクティブ・ジャスティスを考える～健康と権利、そして自由と公正と正義 熱田敬子

リプロダクティブ・ヘルス/ライツは、フェミニズムの中心的課題の一つである。しかし健康と権利の枠組みからはこぼれてしまう問題もある。アフリカ系アメリカ人の女性たちが提唱したリプロダクティブ・ジャスティス運動を参照し、参加者とともに性と生殖の自由、公正、正義について考える。

A6 暴力被害相談：基本的な考え方と実際 池田ひかり

DVや性暴力などの被害を経験した女性に対する支援の基本姿勢や心理教育、情報提供の仕方、関係機関との連携のとり方、相談時の配慮など基本的なことを学ぶ。

A7 障害のある女性と複合差別 佐々木貞子・川合千那未

障害のある女性は性差別と障害者差別を複合的に受けている。視覚障害当事者である講師も同様だ。障害のある女性が置かれている現状と、適切な支援のあり方を学ぶことによって、社会の側の課題をしっかりと共有したい。

A8 性暴力被害と支援 山本潤

性暴力という言葉が聞かれるようになって久しいが、性暴力とは何か、どういう体験であるのかという事が理解されることは少ない。性暴力は被害者に何をもちこたすのか、その影響と必要とされる支援について共に考える。

II期 A9 リプロ②医療と女性の人権 大橋由香子

刑法堕胎罪の例外規定として中絶を許可した優生保護法は、危険な闇堕胎から女性を救ったと同時に、強制的な不妊手術や中絶も推進してきた。人口政策が女性の身体、人生に及ぼす影響について考える。

A10・A11 ワーク：対人支援の基礎を固める 金香百合

当事者の回復とエンパワーを支援する対人援助者としての自覚をもち、自らの言動や価値観に対する敏感さを磨く。自己理解・他者理解・社会状況・ケアする人のケアを総合的に深める。人間理解として自尊感情や暴力の連鎖についても学ぶ。

A12 若年女性が抱える性問題とその支援 染矢明日香

SNSが若い世代にも浸透する中で、性暴力・DV被害、思いがけない妊娠、性感染症、将来的な不妊など、若年女性が抱える性の課題とその支援について考える。

I期 7月20日（土） オンライン開催					
10:00～	10:15～11:30	11:50～13:10	13:10～14:20	14:20～15:40	16:00～17:20
オリエンテーション	A1 コミュニケーションの取り方	A2 子どもの虐待とその支援	昼食	A3 女性への暴力と社会構造	A4 働くこととジェンダー格差
柘植あづみ	丹野真紀子	平尾幸枝		角田由紀子	皆川満寿美
II期 11月2日（土） 会場開催					
10:00～11:20	11:40～13:00	13:00～14:20	14:20～15:40	16:00～17:20	
A9 リプロ② 医療と女性の人権	A10 ワーク：対人支援の基礎を固める	交流会 昼食	A11 ワーク：対人支援の基礎を固める	A12 若年女性が抱える性の問題とその支援	
大橋由香子	金香百合		金香百合	染矢明日香	
III期 2月8日（土） オンライン開催					
A17 行政の各種支援制度と活用について	A18 女性の自立支援	昼食	A19 回復する力、その後の不自由	A20 外国人女性への支援	
中鉢美之	熊谷真弓		上岡陽江	皆川涼子	

A13 シングルマザー、貧困 大原康子

日本のシングルマザーの9割は就業しているにもかかわらず、5割は相対的貧困の状況にあります。シングルマザーはなぜ貧困に陥るのでしょうか？法制度、雇用慣行、家族観、ジェンダー等の観点から考察します。

A14 LGBTIQ+コミュニティと性暴力 岡田実穂

人口の6～10%はセクシュアル・マイノリティであると言われています。その実際を知らなければ、その人たちの困難に気付くことはできません。まずは様々なセクシュアリティを学ぶ中から、性の多様性を理解していきましょう。

A15 サバイバーとアディクション 湯本洋介

暴力被害を受けた人のトラウマと、アディクション（嗜癖）-アルコール・薬物依存、ギャンブル依存などの基礎知識、医療的ケアと回復について専門医に学ぶ。

A16 DV、性暴力とトラウマ 菊池美名子

女性に対する暴力は、女性の身体だけでなく、こころにも深い傷を残すことが多い。その後PTSDと呼ばれる精神症状に長く悩まされることもある。心の傷と回復について、最前線の治療援助、調査研究を知る。

III期 **A17 行政の各種支援制度と活用について 中鉢美之**

複合的困難を抱えた被害女性の支援には、様々な制度を組み合わせた対応が必要になる。関連分野の制度を十分に把握して、有効に制度活用できる力をつけよう。

A18 女性の自立支援 熊谷真弓

女性問題の視点から女性福祉を考え、母子生活支援施設、生活保護女性更生施設、精神障害者総合支援法施設、婦人保護施設などの現場で働いてきた講師の経験から学ぶ、女性の自立支援の課題、関係機関との連携、そして支援職について。

A19 回復する力、その後の不自由 上岡陽江

子ども時代の被虐待経験やその後の性暴力被害、DV被害、薬物中毒、売春という「犯罪」など、たび重なるトラウマを生きのびてきた女性たちの物語から、回復の道筋をたどる。

A20 外国人女性への支援 皆川涼子

暴力被害にあった外国籍の女性への司法支援に取り組んでいる援助者から、被害実態や被害女性をとりまく困難な状況、被害者が外国籍の場合の留意点などを学ぶ。

A21 記録の取り方 池田ひかり

記録をとる目的、支援に役立つ記録の書き方・活用の仕方、記録の開示などを具体的に学ぶ。

A22 支援現場に必要な法的知識 森あい・片岡麻衣

DV、性暴力の支援において、司法のしくみはどうなっているのか。関連法律にはどのようなものがあるのか。弁護士役割や探し方についても知る。

A23 DV・虐待によるトラウマを前提とした支援 中島幸子・西山さつき

親密な相手からの暴力は女性にどのような混乱をもたらすのか。そのしくみを知り、混乱からの回復のために必要なことについても考える。

A24 リプロ③生殖における自己決定 柘植あづみ

体外受精、代理出産、出生前検査……生殖技術が進展する一方で、女性たちが被る精神的身体的苦痛は語られることが少ない。妊娠・出産・不妊治療・流産・婦人科診療をめぐる女性たちの語りから医療における女性の人権を考える。

I期 7月21日（日） オンライン開催					
9:30～10:50	11:10～12:30	12:30～13:30	13:30～14:50	15:10～16:30	16:30～17:00
A5 リプロ①日本におけるリプロダクティブ・ジャスティスを考える	A6 暴力被害相談：基本的な考え方と実際	昼食	A7 障害のある女性と複合差別	A8 性暴力被害と支援	ふりかえり
熱田敬子	池田ひかり		佐々木貞子・川合千那未	山本潤	スタッフ
II期 11月3日（日） 会場開催					
A13 シングルマザー、貧困	A14 LGBTIQ+コミュニティと性暴力	昼食	A15 サバイバーとアディクション	A16 DV、性暴力とトラウマ	ふりかえり
大原康子	岡田実穂		湯本洋介	菊池美名子	スタッフ
III期 2月9日（日） オンライン開催					
A21 記録の取り方	A22 支援現場に必要な法的知識	昼食	A23 DV・虐待によるトラウマを前提とした支援	A24 リプロ③生殖における自己決定	ふりかえり
池田ひかり	森あい・片岡麻衣		中島幸子・西山さつき	柘植あづみ	スタッフ

SANEコース 性暴力対応看護師養成講座

I期 S1 SANEの役割と課題、IAFNとは 加納尚美

SANE: 性暴力対応看護師に求められる役割、資質、知識とは。日本の現状に即した中で、どのような活躍が期待されているのか。

S2 保健医療対応：地域行政編 稲吉久乃

犯罪被害者等基本法には国と自治体と国民の責務があるとうたわれている。自治体としての支援を事例を通じて知り、使っていけるようにしたい。

S17 性暴力の証拠採取 検察の視点から 城祐一郎

性暴力に対する法律上の規制、発生時の証拠収集上の留意事項、収集した証拠の証拠能力及び証拠価値の法律上の評価、公判における性暴力事犯の問題点及び収集した証拠の活用状況等。

S4 被害者の理解：社会編 土井真知

DVや性暴力に関する資料や調査結果から、被害の実態、一般社会で信じられている誤解と事実、社会において被害者が置かれている状況等を考える。支援の現場でとまどわないために。

S5 DV相談機関の活用 池田ひかり

虐待対応とは異なるDV被害者支援の基本的なスタンスやDV被害者支援体制とその利用方法を具体的に学び、支援ネットワークの中での医療者が求められる役割について理解を深める。

S6 SANEが知っておくべき支援の原則 家吉望み

DV/性暴力被害にあった人に医療的ケアを提供するうえで、何に注意すべきか。やってはいけないこと、言っちゃいけない言葉、SANEだからこそできることや限界について、支援の原則を学ぶ。加えてSANEとして「倫理」について学ぶ。

S7・S8・S9 DVの急性期看護(DVD視聴) 三隅順子 ワーク：看護の実際①②【DV】 大内真沙美

DV被害者支援について視聴覚教材で学び支援の原則を理解する。DV事例を用いた聞き取りやアセスメントの演習を通して支援者としての自分の課題について考える。

II期 S10 私のマイクロアグレッション～無意識の思い込み 李節子

さまざまなマイクロアグレッションの実相について学びます。また、時に自分自身がマイクロアグレッションの「加害者」であり「傍観者」であり「被害者」になっていることを自覚し、よりよいコミュニケーションのあり方を模索します。
参考文献：デラルド・ウィン・スー著：日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション—人種、ジェンダー、性的指向：マイノリティに向けられる無意識の差別 明石書店 2020年。

S11 保健医療対応：法医学編【損傷の記録】 主田英之

身体的外傷の特徴と治癒経過をふまえ、暴力被害に関連する身体的外傷を正確に観察し、記録することはSANEにとって重要な仕事の一部。後に医学的証拠にもなりうるカルテ記載ができるよう、その知識や方法を学ぶ。

S12・S13・S14 ワーク：私たちにできる連携①②③ 三隅順子

これまでの講座や地域・職場において得られた情報・知識から、自分たちなりに連携を模索する。当事者の様々なニーズに応えるための連携作りには何が必要か考える。

I期 7月20日(土) 会場開催

10:00～11:20	11:40～13:00	13:00～14:20	14:20～15:40	16:00～17:20
S1 SANEの役割と課題 IAFNとは	S2 保健医療対応： 地域行政編	交流会 昼食	S3 性暴力の証拠採取 検察の視点から	S4 被害者の理解： 社会編
加納尚美	稲吉久乃		城祐一郎	土井真知

II期 11月2日(土) オンライン開催

10:00～11:20	11:40～13:00	13:00～14:00	14:00～15:20	15:40～17:00
S10 私のマイクロアグレッショ ン～無意識の思い込み	S11 保健医療対応： 法医学編 【損傷の記録】	昼食	S12 ワーク： 私たちにできる連携①	S13 ワーク： 私たちにできる連携②
李節子	主田英之		三隅順子	三隅順子

III期 2月8日(土) 会場開催

10:00～11:20	11:40～13:00	13:00～14:20	14:20～15:40	16:00～17:20
S19・S20 保健医療対応：子ども編 【子どもの性虐待/MDTについて】		交流会 昼食	S21 保健医療対応： 産婦人科編 【妊娠と性感染症】	S22 性暴力被害者の 急性期対応の基本
山田不二子			丸橋和子	家吉望み

S15 病院拠点型ワンストップ支援センターにおけるSANEの実践 片岡笑美子

SANEの活動の場としてモデルとなる名古屋のワンストップ支援センターでの実践を知り、自分の今後の活動を考える。

S16 保健医療対応：精神看護編 【トラウマインフォームドケア】 長江美代子

性暴力被害によるPTSDの影響により生活・社会不適応となり再被害をくりかえすという悪循環や、子どもの逆境体験（ACEs）による悪性ストレスなどの社会的公衆衛生の課題を理解し、トラウマインフォームド・ケアの実践を学ぶ。

S17 保健医療対応：精神看護編 【トラウマおよびPTSDのアセスメント】 長江美代子

性暴力被害直後からの被害者の状態と経過、性暴力被害の精神病理を概観した上で、PTSD症状のアセスメントについて学び、尺度（PTSD症状、解離、うつ、不安）を用いた演習も行いながら、PTSD予防の心理教育について実践的に学ぶ。

S18 二次受傷、感情労働、セルフケア 米山奈奈子

被害者支援では、支援者は支援を通して二次受傷を負う危険性がある。特に感情労働の特徴を理解した上でセルフケアの重要性を再認識できることを目指す。

III 期 **S19・S20 保健医療対応：子ども編【子どもの性虐待/MDTについて】** 山田不二子

性暴力被害にあった子どもにはどのような症状が起きるのか。性虐待の疑いがあったとき医療者として気をつけなければならないことは何か。発達過程にある子どもの支援の特徴について解説する。また、MDTの重要性についても述べる。

S21 保健医療対応：産婦人科編 【妊娠と性感染症】 丸橋和子

性暴力被害によるからだへの影響はどのようなものがあり、緊急対応と長期的ケアとしてどのようなものが必要か。

S22 性暴力被害者の急性期対応の基本 家吉望み

性暴力被害者に対する急性期看護についてポイントを確認する。

S23・S24 ワーク：看護の実際【損傷の記録】【体液採取と記録】 主田・家吉・他スタッフ

性暴力のアセスメントのポイントを押さえ、証拠採取や記載方法を演習する。

S25 損傷記載の講評、対応の基本と確認 主田・家吉

ワークのまとめを行い、ポイントを確認する。

S26 支援の継続と発展 加納尚美

SANEでの学びについて各自の体験と知恵を出し合い、支援の継続と発展について考える。痛み、涙、笑い、悲しみなどさまざまな感情を自分の変化の糧として、新たな希望や抱負を拓く。

I 期 7月21日（日） 会場開催					
9:00～10:20	10:40～12:00	12:00～	13:00～13:50	14:10～15:30	15:40～17:00
S5 DV相談機関の活用	S6 SANEが知っておくべき支援の原則	昼食	S7 DVの急性期看護(DVD視聴)	S8 ワーク：看護の実際①【DV】	S9 ワーク：看護の実際②【DV】
池田ひかり	家吉望み		三隅順子	大内真沙美	大内真沙美
II 期 11月3日（日） オンライン開催					
9:00～10:20	10:40～12:00	12:00～	13:00～13:50	14:10～15:30	15:40～17:00
S14 ワーク：私たちにできる連携③	S15 病院拠点型ワンストップ支援センターにおけるSANEの実践	昼食	S16 保健医療対応：精神看護編【トラウマインフォームドケア】	S17 保健医療対応：精神看護編【トラウマおよびPTSDのアセスメント】	S18 二次受傷、感情労働、セルフケア
三隅順子	片岡笑美子		長江美代子	長江美代子	米山奈奈子
III 期 2月9日（日） 会場開催					
9:00～10:20	10:40～12:00	12:00～	13:00～14:20	14:40～15:30	15:40～17:00
S23 ワーク：看護の実際【損傷の記録】	S24 ワーク：看護の実際【体液採取と記録】	昼食	S25 損傷記載の講評、対応の基本と確認	S26 支援の継続と発展	修了証授与 ふりかえりと抱負の共有
主田/家吉/三隅/加納/大内/横井/高崎/藤由/寺田/廣山			主田・家吉	加納尚美	スタッフ

① NPO法人レジリエンスプログラム

I期 R1 オリエンテーション

R2 ト라우マを理解する 支援者の代理受傷 中島幸子・西山さつき

トラウマは自律神経に不調をもたらし、当事者に様々な生きづらさや悪影響をもたらす。グループワークを通して、自律神経とトラウマの影響の理解を深める。トラウマが支援者にもたらす影響（代理受傷）についても学び、支援者のためのセルフケアについても考える。

R3 デートDV予防教育の実践と効果 西山さつき

若年層に向けて行うデートDV予防教育の目的と期待できる効果について考える。学校での予防教育の実施の方法や効果的な開催方法について検証する。

R4 性暴力 (SAFER101) 中島幸子

性暴力被害についての基礎的な理解を深める。被害者を理解して傍に寄り添う支援者が増えることで、性暴力のない安全な環境・社会を目指す。性暴力がもたらす解離について学ぶことにより当事者の理解や対応に役立てる。

R5 解離の理解と対応について 中島幸子・西山さつき

解離は逆境経験を生き延びるひとつの方法であり、虐待や性暴力に深い関連のあるテーマである。複雑な解離の仕組みを理解することで、より良い支援のあり方や対応を学び考える。

R6 支援の現場で役立つ知識 1 中島幸子・西山さつき

アタッチメントは、多くの人たちが自分自身への理解を深めるための大切な概念である。特に支援の場では、トラウマのレンズを通して見たアタッチメントについての知識が重要となる。当事者との境界線のあり方をドラマ・トライアングルという人間関係の力学を通して考える。トラウマの症状や対応についての知識を得て、より良い支援の在り方や環境を整える方法について検証する。

R7 支援の現場で役立つ知識 2 中島幸子・西山さつき

暴力や傷つき経験への対応にはグリーフ（傷つきによる喪失と癒しのプロセス）の視点は外すことはできない。米国での子どものグリーフワークの施設、暴力のワンストップセンターなどの視察時のスライドを通して、支援の新しい視点を知る。

R8 ふりかえり・ディスカッション 中島幸子・西山さつき

参加者の方向士の研修内容のふりかえりのディスカッションを行い、感想や質問を共有する。

NPO法人レジリエンスプログラム ※会場開催+オンライン（会場40名+オンライン40名）

I期 7月20日（土） 会場開催					
10:00～10:30	10:30～12:00	12:10～13:00	～14:20	14:20～15:50	16:00～17:20
R1 オリエンテーション	R2 トラウマを理解する ・支援者の代理受傷	R3 デートDV予防教育の実践と効果	交流会 昼食	R4 性暴力 (SAFER101)	R5 解離の理解と対応について
中島・西山	中島幸子・西山さつき	西山さつき		中島幸子	中島幸子・西山さつき

I期 7月21日（日） 会場開催			
10:00～12:00	～13:00	13:00～16:00	16:10～17:00
R6 支援の現場で役立つ知識 1	昼食	R7 支援の現場で役立つ知識 2	R8 ふりかえり ディスカッション
中島幸子・西山さつき		中島幸子・西山さつき	中島幸子・西山さつき

② 認定NPO法人CFJRIFCR™プログラム

***会場は東京医科歯科大学です**

RIFCR™（リフカー）とは、子どもの周囲にいる大人が、性虐待・身体的虐待・ネグレクト・DVの目撃等、人には話づらい経験をしたことが疑われる子どもに対してどのように面接し、何を聞くべきで、何を聞くべきでないかということを半構造化した面接プロトコルです。

- ・子どもは性虐待をどのように経験するのか
- ・虐待を打ち明けるプロセス
- ・子どもの性的発達・日本の児童保護制度
- ・RIFCR™（リフカー）プロトコル

IV期 2月15日(土) 9:00～18:20 *会場開催
RIFCR™プログラム（山田・工藤）

SV・Ct・BSコース

支援養育センター事例検討プログラム (SV)

II期 SV1 ケースカンファのための事例の書き方① 今野理恵子

有意義な事例検討を行うために、人に伝える事例の書き方のポイントを押さえます。

SV2 ケースカンファのための事例の書き方② 池田ひかり

相談支援で収集した情報の中から、ソーシャルワークの視点で事例検討に必要な情報は何か、事例にどのように記載するとよいのか、といった事例作成の方法を学びます。

SV3 ケースカンファレンスのすすめ方 米山奈奈子

よりよい支援を進めるには、まずは事例を理解することが重要である。次に、支援に関与した関係者が、振り返りの場を共有するケースカンファレンスが重要となる。参加者の安全や安心を保障し、気づきや発見を促すために、カンファレンスの運営ではどのようなことを心がけたらよいかについてもこの場で共有していきたい。

SV4 ワーク：事例の検討 丹野真紀子・池田ひかり

(SV5・6) 事例提出→事例校正 丹野真紀子・池田ひかり

2月のスーパービジョンに向けて事例作成・メール提出（個人作業）

III期 SV7・8 スーパービジョン 小西聖子

SV5・6で作成し提出した事例を用いてスーパービジョンを行います。

II期 11月2日（土）午後 オンライン開催		II期 11月3日（日）午前 オンライン開催		SV5・6 (個人作業) 事例作成、 提出 丹野・池田	III期 2月8日（土）午後 会場開催	
13:00～14:20	14:40～16:00	10:00～11:20	11:40～13:00		13:00～16:00	～16:30
SV1 ケースカンファのた めの事例の書き方①	SV2 ケースカンファのた めの事例の書き方②	SV3 ケースカンフ アレレンスのす すすめ方	SV4 ワーク： 事例の検討		SV7・8 スーパービジョン	ふりか えり
今野理恵子	池田ひかり	米山奈奈子	丹野・池田	丹野・池田	小西聖子	スタッフ

支援養育センター裁判関連プログラム (Ct)

Ct1 裁判のいろは 城祐一郎

皆さんはテレビで裁判を見たことはあると思いますが、実際のところ、どのような手続がなされているか知らないと思います。テレビでは見えないところを正確にお伝えしたいと思います。

Ct2 証人としての心得 城祐一郎

皆さんは、性犯罪の被害者を救済するための活動などをなされていると思いますが、今後、その専門性が高くなればなるほど法廷に証人として呼ばれる可能性が高くなります。その時に備えて、その際の心構えなどについてお話しいたします。

III期 2月9日（日）午前 会場開催	
10:00～11:20	11:40～13:00
Ct1 裁判のいろは	Ct2 証人としての心得
城祐一郎	城祐一郎

バイスタンダー研修 (BS)

***会場は東京医科歯科大学です**

ワーク 性暴力とアクティブバイスタンダー 本田義明

ハラスメントや性暴力が周囲で起きた時に積極的に介入できる第三者のことをアクティブバイスタンダーと呼ぶ。日本における性暴力被害の現状とその背景を講義で学んだのち、ロールプレイを通じてアクティブバイスタンダーとしてできる行動について理解を深める。

IV期 2月16日（日）午前 会場開催
10:00～12:00
バイスタンダード研修 ワーク：性暴力とアクティブバイスタンダー

講師紹介

- 熱田 敬子 あつた けいこ ジェンダー・社会学研究者、ふえみ・ゼミ&カフェ運営委員、日中通訳・翻訳。
- 家吉 望み いえよし のぞみ 助産師。東京有明医療大学看護学部教員。SANE-J。
- 池田ひかり いけだ ひかり 社会福祉士。精神保健福祉士。公認心理師。大学ハラスメント専門相談員。DV相談等スーパーバイザー。
- 稲吉 久乃 いなよし ひさの 精神保健福祉士。保健師。SANE-J。行政の犯罪被害者支援相談窓口の職員。
- 大内真沙美 おおうち まさみ 看護師。SANE-J。埼玉県ワンストップ基幹病院勤務。性教育・デートDV予防啓発講師。
- 大橋由香子 おおはし ゆかこ ライター・編集者、非常勤講師。女性と健康について執筆・活動。著書『満心愛の人』（インパクト出版会）ほか。
- 大原 康子 おおはら やすこ 一般社団法人ルータス代表理事。株式会社ルータスワークス代表取締役。3児のシングルマザー。
- 岡田 実穂 おかだ みほ レイプクライシス・ネットワーク代表。
- 片岡笑美子 かたおか えみこ 一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター 会長。SANE-J。
- 片岡 麻衣 かたおか まい 弁護士。共編著に「セクシュアル・マイノリティの法律相談」（ぎょうせい）。
- 加納 尚美 かのう なおみ 助産師。茨城県立医療大学学外研究員。SANE-J。
- 上岡 陽江 かみおか はるえ 精神保健福祉士。ダルク女性ハウス代表。当事者支援者として薬物依存女性の支援に携わる。
- 川合千那未 かわい ちなみ DPI女性障害者ネットワークメンバー。
- 菊池美名子 きくち みなこ。 武蔵野大学人間科学部社会福祉学科非常勤講師、江戸川看護専門学校非常勤講師。
- 金 香百合 きむ かゆり 堺市立男女共同参画センター館長。「ホリスティック教育実践研究所」
- 熊谷 真弓 くまが いまゆみ 精神保健福祉士。婦人保護施設慈愛寮施設長。
- 小西 聖子 こにし たかこ 精神科医、臨床心理士。武蔵野大学人間科学部教授。
- 今野理恵子 こんの りえこ 武蔵野大学人間科学部人間科学科講師。
- 佐々木貞子 ささき さだこ DPI女性障害者ネットワーク副代表。DPI障害者差別解消ピアサポート相談員。
- 染矢明日香 そめや あすか NPO法人ピルコン理事長。
- 高崎 瑞恵 たかさき みずえ 保健師。SANE-J。
- 城 祐一郎 たち ゆういちろう 昭和58年から35年間検事として勤務した後、平成30年4月、昭和大学医学部教授となり現在に至る。
- 丹野真紀子 たんの まきこ 大妻女子大学人間関係学部教員。
- 中鉢 美之 ちゅうばち みゆき 任意団体「びーらぶ秋田」代表。女性相談員。社会福祉士。看護師。精神保健福祉士。
- 柘植あづみ つげ あづみ 明治学院大学教員。著書に『生殖技術—不妊治療と再生医療は社会に何をもたらすか』（みすず書房）など。
- 角田由紀子 つのだ ゆきこ 弁護士。著書に「性と法律」（岩波新書）共編著に「脱セクシュアル・ハラスメント宣言」（かもがわ出版）
- 寺田 淳子 てらだ じゅんこ 看護師。SANE-J。
- 土井 真知 どい まち 研究者。専門は医療人類学、対人援助論。看護専門学校兼任講師等を経て、現在は国の機関に勤務。
- 長江美代子 ながえ みよこ SANE-J, 精神看護専門看護師（ANCC認定）、公認心理師。
- 中島 幸子 なかじま さちこ NPO法人レジリエンス代表。著書に『マイ・レジリエンス』（梨の木舎）など。
- 西山さつき にしやま さつき NPO法人レジリエンス代表。
- 主田 英之 ぬしだ ひでゆき 徳島大学准教授。大学院社会医学系法医学分野。
- 廣山奈津子 ひろやま なつこ 助産師。東京医科歯科大学大学院教員。SANE。
- 平尾 幸枝 ひらお ゆきえ 社会福祉法人カリヨン子どもセンター 理事。カウンセラー。
- 藤由 邦江 ふじよし くにえ 看護師。思春期保健相談士。SANE-J。
- 本田 義明 ほんだ よしあき 慶應義塾大学大学院政策メディア研究科修士課程。学生団体Safe Campusにて性暴力防止研修を運営。
- 丸橋 和子 まるはし かずこ 産婦人科医。まるはし女性応援クリニック院長。
- 三隅 順子 みすみ じゅんこ 助産師。秀明大学教員。SANE-J。
- 皆川満寿美 みながわ すみみ 中央学院大学准教授。90年代から学生や市民にフェミニズム、ジェンダー、セクシュアリティなどの講座を担当。
- 皆川 涼子 みながわ りょうこ 弁護士。日本語を母語としない女性への司法支援や人身取引問題への取組みを積極的に行う。
- 森 あい もり あい 弁護士。「暴力DVは異性間だけの問題か？」（『セクシュアリティと法 身体・社会・言説との交錯』掲載）など。
- 山田不二子 やまだ ふじこ 内科医。NPO法人チャイルドファーストジャパン理事長。
- 山本 潤 やまもと じゅん 看護師、保健師。SANE-J。著書に「13歳、『私』をなくした私～性暴力と生きることのリアル」（朝日新聞出版）。
- 湯本 洋介 ゆもと ようすけ 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター、精神科医。NPO法人ダルク女性ハウス理事。
- 横井 由美 よこい ゆみ 看護師。SANE-J。
- 米山奈奈子 よねやま ななこ 保健師。秋田大学大学院医学系研究科教員。SANE-J。
- 李 節子 りせつこ 長崎県立大学名誉教授 助産師 SANE-J。